

只見町ブナセンターだより



ただみ・子どもブナサミット 豪雨災害の影響で中止に……

2011年8月20日（土）～21日（日）に開催を予定していた、「ただみ・子どもブナサミット」は今回の新潟・福島豪雨災害の影響を配慮して中止いたしました。

発表の準備をしてくださっていた町内外の子供たち。遠方から参加を予定していただいていた保護者の方々や皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。

一日も早い只見町の復興を目指し、次回子どもブナサミットの開催に向けたいと思います。

また、8月4日に開催予定だった昆虫採集教室「昆虫をおいかける」についても中止いたしました。楽しみにしていただいていた皆様、大変申し訳ございませんでした。

【2011年7月 新潟・福島豪雨災害について】

2011年7月26日～30日にかけて新潟県・福島県会津地方に降った雨は、大きな豪雨災害をもたらしました。下記に只見町の災害について報告します。

只見町の豪雨災害報告（ブナセンター発 暫定版）

■ 72時間雨量700mm以上の記録的豪雨！全町民に避難勧告

今回の豪雨は、7月30日までの72時間雨量が700mmに達し、30日の朝までの24時間雨量は、観測史上最多の527mmとなりました。その結果、只見川、伊南川をはじめ、ここに流れ込む中小河川が氾濫し、流域に大きな災害をもたらしました。また、山麓部では、各所で斜面から大量の土砂が流れ出し、土石流となって、農耕地、宅地を襲いました。



写真1：一面、水に覆われる伊南川と只見川の合流付近（渡部和子氏提供）



写真2：増水した伊南川（小林地区付近）

■ 被害は行方不明 1 名、流失家屋、床上浸水、集落の孤立

その結果、黒谷入で、土石流に巻き込まれた男性が一人行方不明となっています。また、伊南川が只見川に合流する付近から下流域で、只見川が氾濫し、多くの家屋が床上浸水などの被害を受けています。今までにわかっている家屋の被害は、流失家屋が 10 棟、土砂埋没が 4 棟、床上浸水 100 棟、床下浸水 250 棟などです。この他、幹線道路である国道や県道で土砂崩れや橋梁の流失が発生し、一時、交通が寸断されました。林道についても大きな被害を受け、未だその被害実態がつかめていません。また、農耕地も大きな被害を受けています。



写真3：増水により流失被害を受けた家屋（叶津地区）



写真4：伊南川の氾濫により落ちた小川橋



写真5：土石流の直撃を受けた家屋（二軒在家地区）

■ 住民の協力で進む復旧

被災直後から、地元消防団、警察、自衛隊が災害救援活動を開始し、洪水で取り残された住民の救助に当たり、また、寸断された道路の復旧、災害後、発生した停電や断水の解消が図られました。

さらに天候が回復する中で、8月1日からは、本格的な被災家屋の片付けなどが、住民や災害ボランティアの協力の下、精力的に取り組まれています。その結果、一部地域を除き、インフラの回復が図られ、日常生活が徐々に取り戻されつつあります。



写真6：家屋から流入した土砂を取り除く復旧作業（熊倉地区）



写真7：只見高校生ボランティアによる被災家屋の後片付け（只見地区）

■ 洪水で攪乱を受けたヤナギ林

今回の豪雨で発生した洪水は、希少樹種ユビソヤナギの日本最大の自生地である伊南川流域に成立していたヤナギ林を直撃しています。河川の中洲に成立していたヤナギ林は、壊滅的な被害を受けましたが、一般的に言われるような根こそぎ流され、流木化するといった現象は顕著には見られず、流水になぎ倒され、樹冠部を飛ばされ丸裸にされるといった現象が見られます。

また、岸辺の比較的比高の高い河床堆積地に成立していたヤナギ林は、河岸侵食により一部流失しているものの、土砂の堆積を受けつつも、被害は比較的軽微に留まっているように思われます。現在、ブナセンターは、河川攪乱を受けたヤナギ林について、その実態調査に取り組み絶滅危惧種ユビソヤナギ集団の現況把握に努めています。



写真8：河川の氾濫により大きな影響を受けた伊南川のヤナギ林



写真9：洪水により裸にされたヤナギ、しかし、流亡現象は見られない

■ ブナ林は豪雨の被害を受けず

今回の災害は、記録的な豪雨によって引き起こされた洪水と土石流被害でした。そのため、比較的安定した斜面に成立するブナ林には影響がほとんど見られませんでした。実際、歩道が整備されている「恵みの森」「癒しの森」のブナ林では、豪雨被害を受けていません。ただし、山神杉のブナ林、沼の平のブナ林は、アクセス道が大きな被害を受け、通行止めが続いており、入山は出来ません。



写真 10：「恵みの森」の河川沿いのブナ林に被害は見られない



写真 11：「癒しの森」のブナ林は、いつも通りの姿が見られる

■ 只見は、豪雨災害に負けない！

今回、只見町を襲った自然災害は、記録的な豪雨がもたらしたものです。確かに、只見町に大きな被害をもたらしましたが、原発事故とは異なり、地域社会の存在を根底から脅かすものにはなっていません。時間はかかるものの、確実に復旧して行くものと考えられます。只見の自然環境から見ても、今回の豪雨災害は、只見町内の河川の氾濫や部分的な山腹崩壊や土石流の発生は見られましたが、その姿を大きく変えるものにはなっていません。

このことの意味するところは、只見の自然環境が、自然災害の発生を潜在的に抱えているというよりは、記録的な豪雨にもかかわらず、人々の生活を守る大きな役割を果たしたと見るべきかもしれません。只見地域にブナの天然林をはじめとした豊かな自然環境が存在することで、豪雨災害を最小限度に食い止めたとも言えます。豪雨災害を契機に、自然災害を未然に防ぐためとして必要以上の自然環境の改変は、慎まなければならないと思います。それこそが、自然環境を破壊し、生物多様性を脅かし、自然災害を誘発する危険性を高めます。

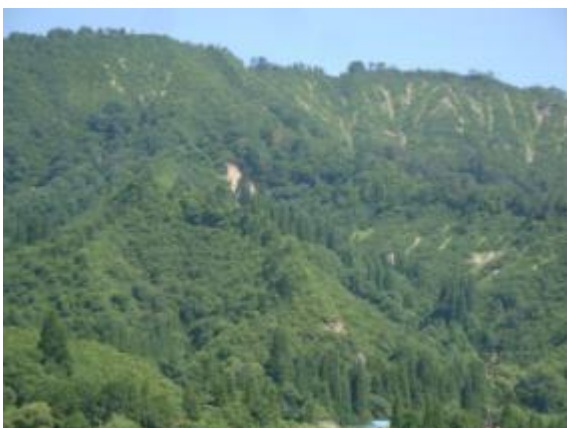


写真 12：いつもと変わらない只見の自然

【只見町ブナセンターの催し】

【ただみ・ブナと川のミュージアム特別展示】

●世界のブナ展 ～只見から世界まで～

開催中～9月30日（金）

只見町には、未だ豊かな自然環境が残されています。なかでも多雪環境の下で形成された雪食崩壊地に張り付く低木林と安定した立地に発達するブナに代表される冷温帯落葉樹林が、自然の姿で広大な面積にわたって残されていることが特徴の1つにあげられます。

このブナ林は、世界的にみても稀な多雪環境で成立するブナ林で、特異な植物社会学的な組成と構造を有しており、生物多様性に富み、学術的にも貴重な存在といえます。

くわえて、北半球の冷温帯地域にかつて存在したブナ林は、有史以来、人の手が加わり、伐採、利用などにより面積を減らし、今日、原生的なブナ林を見ることは困難となっています。今回の展示は、世界に分布するブナの仲間を紹介し、こうした只見町のブナ林の価値を知るためのきっかけとしていただきたいと考えます。

【第12回ブナセンター講座】

●世界のブナ林、只見のブナ林

講師：福嶋 司さん（東京農工大学大学院教授）

日程：9月11日（日）

午後1時30分～午後3時

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

参加費：入館料のみ

世界のブナ林を調査・研究してきた福嶋司先生が、世界のさまざまなブナ林を紹介しながら、只見町のブナ林との比較をお話します。

事前申し込みは不要です。直接会場にお越しください。



【自然観察会】

●太田川源流のブナ林と木地師集落跡を訪ねる

日程：9月10日（土） 午前10時～午後3時

集合：森林の分校ふざわ 午前10時集合

持ち物：お弁当・飲み物

参加費：無料

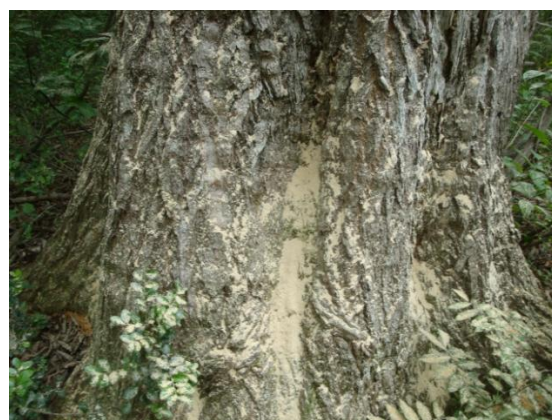
（お申し込み・お問い合わせ）

只見町ブナセンター（☎0241-72-8355）まで事前に電話でお申し込みください。

ナラ枯れに脅かされるコナラの「あがりこ」

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシによって運ばれる病原菌が原因となって引き起こされるナラ・カシ類の集団枯損です。本州の日本海側を中心に各地で猛威を振るい、その被害地は太平洋側にも拡大しています。

ここ只見町では、数年前から新潟県境の「六十里越」経由で侵入し、只見川流域を下り、また伊南川流域へと遡りつつあります。柴倉山麓に広がる前平には、貴重なコナラの「あがりこ」林がありますが、この「あがりこ」がナラ枯れの被害を受けており、その存続が心配されます。只見町ブナセンターでは、只見地域のナラ枯れの拡大状況をモニタリングする取り組みを行う計画で、その結果は、ホームページで随時公開する予定にしています。



写真(上)：カシノナガキクイムシの食害の結果、粉状の木くずが幹から吐き出される

写真(左)：ナラ枯れの被害を受けたコナラのあがりこ

ただみ・ブナと川のミュージアム

開館時間：午前9時～午後5時

(最終受付は午後4時まで)

休館日：火曜日(祝祭日の場合は翌平日)

入館料：高校生以上 300円、小中学生 200円

未就学児無料、20人以上は団体割引



〒968-0421

福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

「ただみ・ブナと川のミュージアム」内

web サイト ● <http://www.tadami-buna.jp>

E-mail ● info-buna@amail.plala.or.jp



Tel 0241 (72) 8355 fax 0241 (72) 8356